

荒川区立第三中学校「校内ハローワーク」への協力

当協会では「人材確保タスクフォース」を設置し、船員教育機関等と連携しつつ優秀な日本人船員（海技者）確保のための広報活動を展開しています。

この度、その一環として荒川区立第三中学校（東京都）の校内ハローワークに、講師として株式会社商船三井 田井穰機関長及び同社清岡宏貴一等航海士を派遣しました。



全体会の様子

荒川区立第三中学校の校内ハローワークは、約 30 業種の社会人が講師となり、生徒にその職業について紹介するという取り組みで、生徒が多くの職業に触れ、その職業の魅力や苦勞、充実感を直接聞くことで、職業に対する知識を深めることを狙いとしたものです。平成 13 年度から開催され、今年で 17 回目を迎えましたが、当協会には平成 23 年度より招請があり、今回で 7 回目の講師派遣となりました。

今年度は 11 月 11 日（土）に開催され、航海士の他、ネイリスト、TV ディレクターなど 31 職種にわたる講師が招かれ、全校生徒 466 名がそれぞれ希望の講座に参加しました。

講座は、3 回に分けて実施され、計 45 名が参加し、航海士・機関士の仕事、船の大きさや社会に果たしている役割などについて船内の写真、動画も交えて説明を受けました。

海外の寄港地で、その国を観光以外の視点で見られること、酷暑の地で船内の空調が壊れ機関部員が総出で対応したことなど、外航船員ならではのエピソードも披露され、皆、興味深く聞いていました。

生徒からは「航海士・機関士になるために中学生の今、必要なことは?」、「なぜこの仕事を選んだのですか?」、「今までで一番長い航海は?」といった質問がありました。

人材確保タスクフォースでは、今後もこうしたキャリア教育の場などに積極的に参加し、船員という職業の魅力を伝えることで、船員、海技者という職業の認知度向上に努めていきます。



講演する田井機関長（右）と清岡一等航海士（左）